

Salon

Vol.152 2024年9月 秋号



ホール3F壁画 ポール・ゴッアマン作「アダムとイヴ」

- CONTENTS
- 01 Prime Interview — アヌーナ
 - 03 Phoenix Presents — 「月に憑かれたピエロ」をめぐる冒険
Duo März | Duoの試み 2025 mit フロインデ
 - 05 Pick Up
 - 07 Essay de say — フォーレの筆跡をめぐる旅—夏のパリとボストン

異界への扉を開く、神秘的なケルトのハーモニー アヌーナ



時空を超えたはるか彼方、魂の故郷から語りかけてくるような声——アヌーナ (ANÚNA) の音楽は、私たち人間が大いなる自然の一部であり、神話の時代から紡がれてきた物語の延長線上に生きていることを感じさせてくれます。アヌーナの創設者であり、芸術監督のマイケル・マクグリンが生み出すサウンドは、中世アイルランド、ルネサンス、現代音楽、アンビエントなどあらゆる音楽の要素を内包し、多国籍のメンバーからなる男女混声のコーラスがゲール語、ラテン語、アイスランド語などあらゆる言語で歌う神秘的な声は、地球上のどこにもない「異界」へと私たちを誘います。

今年11月、10年ぶりとなる日本ツアーでザ・フェニックスホールを訪れるアヌーナとはどのようなグループなのでしょう。その多面的な魅力を紐解いてみましょう。
(原典子 音楽ジャーナリスト)

アヌーナ (ANÚNA)

アイルランド/ケルト音楽を代表する男女混声のコーラス・グループ。「中世アイルランドの音楽を現代に甦らせる」というコンセプトのもと、1987年に作曲家マイケル・マクグリンによって結成。中世のアイルランドの聖歌・伝統歌、自作曲を、ラテン語、英語、ゲール語を巧みに組み合わせた歌詞を現代的、かつシュールなアレンジを聴かせ、世界中を魅了する。2005年初来日し、過去8回来日。2017年に日本の能との共演した「ケルティック能『鷹姫』」(Bunkamuraオーチャードホール・完売)は高く評価された。最近では、光田康典が作曲したゲーム音楽『Xenogears Original Soundtrack Revival Disc』『ゼノブレイド2』に参加。後者でゲームでの音楽的な貢献が評価され、国際的なゲーム音楽の賞「Annual Game Music Awards」の年間最優秀アーティスト賞を受賞。

世界一周音楽の旅30 アヌーナ

2024年11月23日(土・祝) 15:00開演 指定席
一般5,000円 友の会会員4,500円 学生(25歳以下)1,500円

■出演 アヌーナ

■曲目 「グリーンズリーヴス/スカポロー・フェア」
「愛する人よ、お行きなさい」ほか

■チケットのお求め・お問い合わせ
ザ・フェニックスホールチケットセンター
06-6363-7999(平日10:00~17:00、土日祝休)

中世、ルネサンスから現代音楽、アンビエントまで マイケル・マクグリンが生み出す変幻自在のサウンド

アヌーナは1987年にアイルランドの首都ダブリンで、作曲家マイケル・マクグリンによって結成された男女混声のコーラスグループ。世界的に人気を博したアイルランドのダンス・パフォーマンス『リバーダンス』の初演(1994年)をはじめ、ワールド・ツアーにも参加したことで一躍注目を集めました。設立当初からメンバーは流動的につねに交代を繰り返しており、これまでに100名以上のシンガーがアヌーナに参加。現在は多国籍からなる30名のシンガーを中心に編成されており、今回はマイケルを含めて13名が来日します。

芸術監督のマイケルが「アヌーナは伝統音楽のアンサンブルではないし、クラシック音楽の室内合唱団でもない」と語るように、彼らの音楽は簡単にカテゴライズできるものではありません。ただ、一聴してははっきりとわかるのは、クラシック音楽における「合唱」とは発声に対する考え方が違うということ。アヌーナのサウンドは、マイケルが編み出した「アヌーナ・メソッド」によって受け継がれています。これは5~6歳の子どもがリラックした空気の流れのなかで呼吸をし、立って自然に歌うことができるように、シンガーが自分の本来の姿を見出し、純粋で正直な感情を包み隠さず、声を通してオープンに伝えることができるようにするというもの。一条乱れぬアンサンブルで完璧なハーモニーを磨き上げるよりも、シンガーの個性を重視し、ひとりひとりの声が聞こえてくるようなコーラスには、人間の声がもつ根源的な力強さが宿っています。

アヌーナがレパートリーにしている楽曲は、今から1000年以上前の中世アイルランドの聖歌や伝統歌、「ダニーボーイ」(アイルランド民謡)や「グリーンズリーヴス」(イングランド民謡)といった誰もが知るメロディを織り交ぜつつ、マイケルのオリジナル楽曲が多くを占めています。中世の写本から歌詞を引用するなど、いにしえの世界からインスピレーションを得ながらも、そのサウンドは現代音楽やアンビエントにも通じるものを感じさせます。さらに近年では、ゲーム音楽の作曲家として知られる光田康典が手がける『ゼノブレ

イド2』『クロノ・クロス:ラジカル・ドリーマーズエディション』などの人気ゲームのサウンドトラックに参加したり、能とアヌーナのコーラスを融合させた「ケルティック 能『鷹姫』」公演を行ったりと精力的に活動の幅を広げているアヌーナ。その変幻自在なサウンドは一体どこから生まれてくるのでしょうか? ヒントは、アヌーナの創造主であるマイケルがインタビューなどで折に触れて語っている「自分が影響を受けた音楽」にあります。

マイケルが影響を受けた音楽としてまず挙げられるのは、前述したとおり中世アイルランドやスコットランドなどの古い音楽。しかし「故郷と精神的なつながりは感じるものの、作曲においてインスピレーションを得られるのはアイルランドの“外”から」と語るとおり、彼の楽曲はアイルランドに根ざしたものだけではなく、世界各地に伝わる歌や詩を題材に作曲され、ラテン語、ギリシア語、英語、ゲール語(ケルト語のうち特にアイルランドやスコットランドで話される言葉)、アイスランド語、フランス語など、あらゆる言語で歌われています。それはトールキンの『指輪物語』の舞台である「中つ国」のような、ファンタジーに満ちた「ここではないどこか」に通じる扉を開いてくれるものでもあるでしょう。

次に、中世〜ルネサンス〜初期バロックのヨーロッパの作曲家。ヒルデガルト・フォン・ビンゲン、ギヨーム・ド・マショー、トマス・タリス、ジョン・ダ・パレストリーナ、トマス・ルイス・デ・ビクトリア、カルロ・ジェズアルド、ヘンリー・パーセルといった作曲家の名前は、クラシックの古楽を聴く方にはおなじみでしょう。12世紀の女子修道院長であり作曲家でもあったヒルデガルト・フォン・ビンゲンの「サンクタス(Sanctus)」も、マイケルのアレンジで聴くとキリスト教以前の古代を感じるスピリチュアルな音楽に聞こえます。

こうした古い音楽と同じぐらい、マイケルは現代の音楽からもインスピレーションを受けています。クラシックの作曲家でいうと、クロード・ドビュッシーや武満徹、ジョン・ラター、さらには

1970年生まれのアメリカの作曲家エリック・ウィテカーや、1978年生まれでノルウェー出身のオラ・イェイロなど。アヌーナはルネサンスのポリフォニーから現代音楽まで幅広いレパートリーをもつという面においては、VOCES8やザ・キングズ・シンガーズといったイギリスのアカペラ・ヴォーカル・グループにも通じる部分があるかもしれません。

ビートルズやビーチボーイズのような多重ヴォーカルが特徴的なグループや、デヴィッド・シルヴィアン、ケイト・ブッシュ、デヴィッド・ボウイ、ビョークといったポップス&ロックのスーパースターもまた、マイケルの音楽遍歴を語る上で欠かせない存在です。とくにアンビエント・ミュージック(環境音楽とも呼ばれ、能動的に主張するのではなく、聴き手を取りまく空間に調和するような音楽)のパイオニア的存在として知られるハロルド・パッドには大きな影響を受けたとのこと。マイケルは「私はハロルド・パッドをフィリップ・グラスやヒルデガルト・フォン・ビンゲンと同じカテゴリーに入れたい。アンビエントという言葉は非常に誤用されていると思います。より適切な言葉は、「ノスタルジック(郷愁的な)」つまり、作品の本来の意図とは関係なく、感情や記憶を呼び起こす能力です」と語っています。

さらに近年は、ゲーム音楽や能とのコラボレーションを通して日本の文化からインスピレーションを受け、その絆をいっそう深めているアヌーナ。今回のツアーのなかでも、豊かな音響と都会的な雰囲気を持ち、クラシック音楽を軸にしながらステイヴ・ライヒや久石譲などのミニマル・ミュージックのプロジェクトにも積極的に取り組んできたザ・フェニックスホールでの公演は、聴き手にとっても、またアヌーナにとっても、感性の新たな扉を開く特別なステージとなることでしょう。「このグループはコロナ禍以降大きく成長し、非常に特別に魔法のようなクワイア(合唱団)に成長しました」というマイケルの言葉通り、さらに深遠なるイマジネーションの世界へと私たちを連れて行ってくれることを期待しています。

**ザフェニックスホール
友の会優先予約**
9月20日(金)
10:00 受付開始
※友の会割引はお一人様2枚まで

一般発売
9月27日(金)
10:00
インターネット予約による
お申し込みは9月30日(月)10:00から!

※発売初日は電話予約のみの
お申し込みとなります

■アンサンブル・ア・ラ・カルト69

音楽×美術の革命、20世紀初頭に生まれた無調音楽と抽象絵画
「月に憑かれたピエロ」をめぐる冒険

19世紀の終り、世紀末ウィーンと呼ばれる文化・芸術の爛熟期を経て、20世紀初頭に生まれた無調音楽と抽象絵画。この全く新しい表現は世界を驚かせ、熱狂的な支持と拒絶によって賛否両論を巻き起こしました。それは100年以上経った現代でさえ、難解という言葉で括られ、一般的に受容されているとは言えないでしょう。しかし、本当にそうなのでしょうか。シェーンベルクの作品がただただ難解で面白くないのであれば忘れ去られるはず。しかし、シェーンベルクは残っています。今なお演奏会で取り上げられ続ける作曲家なのはなぜでしょう。

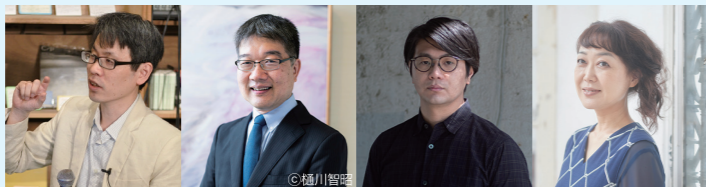
今回の企画では、音楽だけでなく美術(主にカンディンスキー)、そして20世紀初頭のウィーンの状態を取り込みながら、無調音楽と抽象絵画の生まれた背景、そして面白さについて掘り下げます。コンサートを聴いていただく前に、音楽、美術、両方の専門家からのレクチャー、そしてアーティストを交えたトークをお聞きになれば、興味を膨らませてコンサートを楽しんでいただくことができます。演奏プログラムは、当時大スキャンダルを巻き起こした「室内交響曲第1番」をはじめ、新ウィーン楽派の曲を取り上げます。そしてメインプログラムとして、シェーンベルクの代表作である「月に憑かれたピエロ」を演奏します。ピエロの演奏には字幕映写に美術家の山城大督氏を起用し、美術の側面からも表現を試みます。

なにかと小難しいイメージのあるシェーンベルクですが、多方面からアプローチすることで、その面白さを存分に体感していただけることと思います。

<レクチャー編>

2025年
1月13日(月・祝)

15:00開演 自由席(限定100名)
一般 ¥1,000(友の会会員¥900)
学生(25歳以下) ¥500
会場 フェニックスタワー16階 大会議室(ザ・フェニックスホールと同じ建物内です)



出演 三木学(美術評論家)、小味洸彦之(音楽評論家)、山城大督(美術家・映像作家)、太田真紀(声楽家)
構成 <1部>「抽象絵画の魅力について」シェーンベルクがカンディンスキーに与えた影響 (三木学)
<2部>「『月に憑かれたピエロ』の魅力について」シェーンベルクと無調音楽 (小味洸彦之)
<3部> 抽象絵画×無調音楽 評論家とアーティストによるクロストーク

2公演 セット券
<レクチャー編&コンサート編>
一般 ¥4,500(税込)
友の会会員 ¥4,000
※学生券の設定はありません

<コンサート編>

2025年
1月25日(土)

15:00開演 指定席
一般 ¥4,000(友の会会員¥3,600)
学生(25歳以下) ¥1,000



出演 太田真紀(ソプラノ)、北村朋幹(ピアノ)、石上真由子(ヴァイオリン)、福富祥子(チェロ)、上田希(クラリネット)、若林かをり(フルート)
美術 山城大督(映像インスタレーション)

曲目 シェーンベルク(ヴェーベルン編):室内交響曲 第1番(室内楽編曲版) シェーンベルク:『プレットル・リーダー』より
ヴェーベルン:ヴァイオリンとピアノのための4つの小品 ベルク(作曲者編):室内協奏曲より 第2楽章 アダージョ(クラリネット三重奏版)
シェーンベルク:月に憑かれたピエロ

■フェニックス・エヴォリューション・シリーズ110

2025年
2月4日(火)

18:30開演 自由席
一般前売¥3,500(友の会会員¥3,150)
一般当日¥4,000(友の会会員¥3,600)
学生前売¥2,500 学生当日¥3,000



気鋭の現代音楽ユニットDuo Märzが厳選プログラムでお届けする一夜。黄道十二宮を軸に作品を巡る。

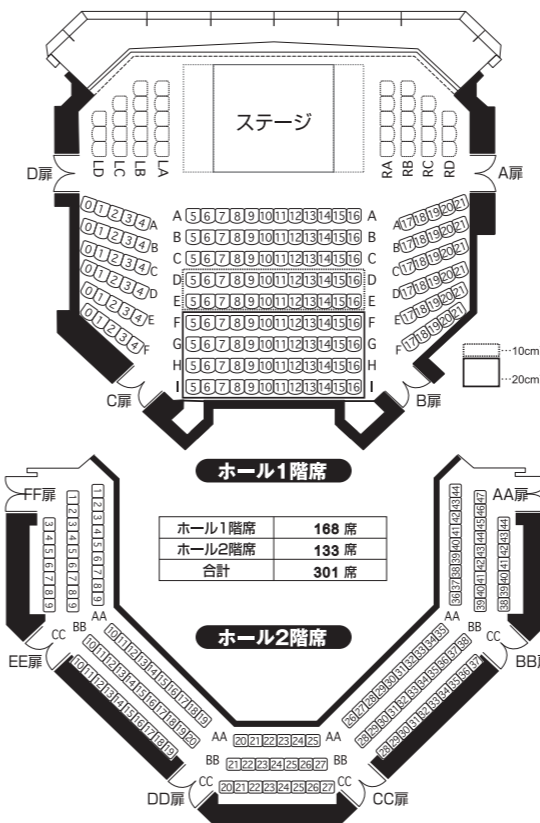
Duo März | Duoの試み 2025 mit フロインデ

出演 井上ハルカ(サクソフォン)、西岡まり子(打楽器)、深見まどか(ピアノ&キーボード)、土橋庸人(エレキギター)、黒川冬貴(コントラバス)、有馬純寿(エレクトロニクス)

曲目 カールハインツ・シュトックハウゼン:黄道十二宮 山本和智:たゆたいのレゾナンス ~4種のノイズ添え~
マルタン・マタロン:Prelude and blue ヤコブTV:Grab it!
エンノ・ポッペ:肉 ヴァンソン・ダヴィッド:In pulse

Duo März(デュオ・メルツ)はサクソフォン奏者・井上ハルカと打楽器奏者・西岡まり子による現代音楽ユニット。Märzとはドイツ語で2人の誕生月「3月」の意。

これまででも委嘱作品や日本初演作品演奏に意欲的に取り組んできたDuo März。結成5年目となる今期は、他楽器も加わった《Duo März+α》拡大版として 深見まどか(ピアノ・キーボード)、土橋庸人(エレキギター)、黒川冬貴(コントラバス)、有馬純寿(エレクトロニクス)の4名をゲストに迎える。ジャズやフュージョンのセッションも可能なこれらの楽器組合せを現代音楽ではどの様に調理するか…。作品毎に様相が変わるバラエティに富んだ作品群にも注目して頂きたい。
ドイツ現代音楽界を牽引する作曲家エンノ・ポッペ『肉(Fleisch)』、サクソフォン界の鬼才で作曲家としても注目を浴びるヴァンソン・ダヴィッド『In pulse』等なかなか出会えないプログラム。



公演チケットのお申し込み方法

お申し込みは
お電話 06-6363-7999 またはご来店
土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00

■ チケットお申込み後のお受け渡し方法

下記①または②のどちらかとなります。
①お申込み日から10日以内にザ・フェニックスホールチケットセンターへご来店ください。営業時間は土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00です。
②先に郵便振込みをしていただき、入金確認後チケットをご郵送させていただきます。皆様のお手元にチケットが届きますのはご入金をいただいてから約10日後となります。その際、振込手数料はお客様にてご負担ください。尚、郵送は簡易書留(一律450円)のみとさせていただきます。

振込口座
00940-0-95351
加入者名
ザ・フェニックスホール

ザ・フェニックスホールチケットセンターは、ビル8階、エレベーターを降りて廊下右側です。

チケットセンターからのお知らせ
郵便料金の改定に伴い、2024年10月1日(火)からチケット送料を変更いたします。
現行)450円→変更後)470円 何卒ご了承くださいませようお願い申し上げます。

2025年度 フェニックス・エヴォリューション・シリーズ審査結果のお知らせ

あいおいニッセイ同和損保が、フェニックスホールは、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社が芸術文化支援活動の拠点として設置、運営している音楽ホールです。優れたアーティストによる自主企画公演を開催する一方で、発表の機会を求めておられるアーティストの方々に呼び掛け、個性溢れる公演にこのホールをご活用いただくことも重要な事業と位置付けています。「フェニックス・エヴォリューション・シリーズ」は、音楽家を含む一般の方々より広く公演企画を募集し、審査を経て選ばれた方々にホールを無料で提供しています。2025年度の企画募集では、国内外から37編のご応募をいただきました。去る2024年7月20日(土)に選考検討会を開催し、識者の方々のご意見を伺ったあと、さらにホールで選考を進めた結果、3編の企画を入選いたしました。

- 選考アドバイザー(五十音順) 長井進之介 様(ピアニスト・音楽ライター) 門田展弥 様(作曲家・音楽評論家・追手門学院大学客員教授) 能登原由美 様(大阪音楽大学特任准教授) 四柳育子 様(関西音楽新聞 編集長) 最上聡 様(毎日新聞大阪本社芸芸記者)

【フェニックス・エヴォリューション・シリーズ111】
採用企画名/ **ハーモニカマニア**
開催日/ 2025年5月17日(土)
出演/ 比嘉祥人(クロマティック・ハーモニカ)、新崎誠実(ピアノ)

【フェニックス・エヴォリューション・シリーズ112】
採用企画名/ **アカデオ リサイタル ～ポーランドの名作曲家たち～**
開催日/ 2025年8月6日(水)
出演/ 松岡井菜(ヴァイオリン)、木口雄人(ピアノ)

【フェニックス・エヴォリューション・シリーズ113】
採用企画名/ **「音景と解像度」山田唯雄 × 黒崎拓海 ギター&ピアノ デュオ・リサイタル**
開催日/ 2026年2月17日(火)
出演/ 山田唯雄(ギター)、黒崎拓海(ピアノ)

あいおいニッセイ同和損保が、フェニックスホール協賛公演のご案内 ザ・フェニックスホール友の会会員の方には割引特典があります。当日券をお買い求めの際は会員証をご提示ください。

協賛公演 **大島亮 ヴィオラリサイタル Vol.10 ～つづくヴィオラ～**

発売中 2024年11月1日(金) 19:00開演 自由席
一般前売・当日 ¥4,000(友の会会員¥3,600) 学生前売・当日 ¥2,000

出演 大島亮(ヴィオラ)、草冬香(ピアノ)

曲目 ストラヴィンスキー:エレジー
信長貴富:ヴィオラとピアノのための組曲《誰もいない部屋》
ブラームス:ヴィオラソナタ 第2番 変ホ長調 op.120-2 ほか

2012年2月に開催した初リサイタル以降、ほぼ毎年のように回を重ねてきたヴィオラリサイタル。10回目の節目となる今回のリサイタルでは、どうしてもヴィオラソナタの名作中の名作であるブラームスのソナタをメインにしたいと思いました。また、2022年のリサイタルで委嘱初演をした信長貴富さんの作品の再演など、さまざまなヴィオラの世界を楽しんで頂けたら嬉しいです。



協賛公演 **佐藤晴真 無伴奏チェロリサイタル** 主催 大阪新音

発売中 2024年11月3日(日・祝) 14:00開演 指定席
前売・当日 ¥5,000(友の会会員¥4,500)

出演 佐藤晴真(チェロ)

曲目 J.S.バッハ:無伴奏チェロ組曲 第3番
クラム:無伴奏チェロソナタ
ブリテン:無伴奏チェロ組曲 第3番

ミュンヘン国際音楽コンクールやルトスワフスキ国際チェロコンクールで優勝した俊英が、異なる時代背景・違う国にルーツを持つ秀美の無伴奏チェロ曲で構成されたプログラムを聴かせます。



協賛公演 **G.A. コンサルタンツ クラシック・スペシャル** 主催 コジマ・コンサートマネジメント


関西弦楽四重奏団
バルトーク:弦楽四重奏曲全曲 & 弦楽四重奏曲傑作選 第3回(全6回)

発売中 2024年11月20日(水) 19:00開演 指定席
一般 ¥4,000(友の会会員¥3,600) U25 ¥2,000(25歳以下・入場時 身分証提示要) ※友の会割引は前売のみ。限定数。

出演 林七奈、田村安祐美(以上ヴァイオリン)、小峰航一(ヴィオラ)、上森祥平(チェロ)

曲目 ハイドン:弦楽四重奏曲 ト短調 op.74-3, Hob. III-74 「騎士」
バルトーク:弦楽四重奏曲 第3番
ブラームス:弦楽四重奏曲 第3番 変ロ長調 op.67

他の作曲家の弦楽四重奏曲の傑作選と共に約2年に渡りバルトークが聴けるこの機会はとても貴重です。是非お聴き逃しなく!!



協賛公演 **中原潤 Farolito** 主催 合同会社Moon

Flamenco Christmas～南米のクリスマスナイト～

9/24(火) 発売 2024年12月10日(火) 19:00開演 指定席
S席 ¥10,000(友の会会員¥9,000) A席 ¥8,500(友の会会員¥7,650)

出演 中原潤, Farolito(以上バイレ)、有田圭輔(カンテ)、森川拓哉(ヴァイオリン)、伊藤ハルトシ(チェロ) ほか

フラメンコダンサー中原潤とFarolitoが日本を代表とするフラメンコプレイヤーを集結させ、南米の音楽をメインとしたスペシャルクリスマス公演! 男たちが繰り広げる愛と情熱のフラメンコショーをお楽しみ頂けます。




協賛公演 **フランシス・プーランクの夕べ～愛のゆくえ～** 主催 ラ・プレイヤード

発売中 2024年12月12日(木) 19:00開演 自由席
一般前売 ¥5,000(友の会会員¥4,500) 当日 ¥5,500(友の会会員¥4,950) 学生前売・当日 ¥3,000

出演 奈良ゆみ(ソプラノ)、寺嶋陸也(ピアノ)、八木清市(舞台監督、監修)、國島芳子(美術)

曲目 プーランク:
即興曲第15番(エディット・ピアフを讃えて)、あなたはそういう人(詩:ルイズ・ド・ヴィルモラン)、C(詩:ルイ・アラゴン)、ホテル(詩:ギヨーム・アポリネール)、ヴァイオリン(詩:ルイズ・ド・ヴィルモラン)、ハートの女王(詩:モリス・カレーム)、モンテカルロの女(詩:ジャン・コクトー)、オペラ「人間の声」(ジャン・コクトー原作/若杉弘訳)

前半(第1部)では即興曲15番、(エディット ピアフに捧ぐ)ピアノ ソロ曲で始まる。続けてアポリネール、アラゴン、ヴィルモラン、カレームの詞に書かれた一連の心の模様映し出される歌曲の最後はコクトーの詞「モンテカルロの女」で一生を愛に生きたなれの果ての女の心を歌う。2部ではジャン・コクトー作の「人間の声」を若杉弘による日本語版で上演。登場人物は女ひとり、絶望の淵に沈みながら受話器を手に、去って行った男と交わす長いモノログ。あるのは、ささやき、溜息、すすり泣き。女の痛ましくも美しい「人間の声」。



協賛公演 **KCM Concert at The Phoenix Hall, Osaka** ～関西圏の最大拠点 大阪梅田で展開する芸術音楽～


野村幸代(ピアノ) “幻想曲風ソナタの系譜” 主催 コジマ・コンサートマネジメント

9/20(金) 発売 2024年12月17日(火) 19:00開演 指定席 前売・当日 ¥4,500(友の会会員¥4,000) ※友の会割引は前売のみ。限定数。

出演 野村幸代(ピアノ)

曲目 ベートーヴェン:
ピアノソナタ 第14番 嬰ハ短調「月光」 op.27-2(幻想曲風ソナタ)
シューマン:幻想曲 八長調 op.17 (フランツ・リストに献呈)
リスト:ピアノソナタ 口短調 S178 (ローベルト・シューマンに献呈)

ベートーヴェンはop.27-1&2の2曲のピアノソナタに「幻想曲風ソナタ」というタイトルを付している。このことは古典的ソナタ形式を浪漫的な表現の創出のために、より自由に展開・発展させようとする彼の意図を明確に示している。ソナタ形式はベートーヴェンの大胆な企みを契機にその後も発展を遂げ、シューマンやリストにその精神は受け継がれてゆく。本公演ではその「幻想曲風ソナタ」の三大傑作が系譜を辿るかの如く演奏される。



協賛公演 **KCM Concert at The Phoenix Hall, Osaka** ～関西圏の最大拠点 大阪梅田で展開する芸術音楽～


イタリアの室内楽シーンを牽引するアヴォス・アンサンブルによる “ブラームス・ナンバーワン” 主催 コジマ・コンサートマネジメント

9/20(金) 発売 2025年1月14日(火) 19:00開演 指定席 前売・当日 ¥4,500(友の会会員¥4,000) ※友の会割引は前売のみ。限定数。

出演 アヴォス・アンサンブル/
マリオ・モンテレー(ピアノ)、山田美怜(ヴァイオリン)、アレッシオ・ピアンネリ(チェロ)

曲目 ブラームス:ヴァイオリンソナタ 第1番 ト長調 op.78 「雨の歌」
チェロソナタ 第1番 ホ短調 op.38
ピアノ三重奏曲 第1番 口長調 op.8

「アヴォス・アンサンブル」は室内楽教育プロジェクト「アヴォス・プロジェクト」の一環として、これに賛同するイアン・ポストリッジ(テノール)、ジュリアス・ドレイク(ピアノ)、アレクサンダー・シトコヴェツキー(ヴァイオリン)、アレクサンドロ・カルボナーレ(サンタ・チェチャーリア国立管クラリネット首席)、アルブレヒト・マイヤー(ベルリン・フィルオーボエ首席)等、世界的なアーティストと共演している。



フォーレの筆跡をめぐる旅—夏のパリとボストン



Keizo Matsui

今夏オリンピック開催地として注目された都市、パリ。現地の様子を映像で見ながら、フォーレ(1845-1924)のピアノ五重奏曲の筆跡を追いかけて旅した学生時代の夏休みを思い出していた。

今から13年前の8月。武蔵野音大の大学院生だった私は、パリ中心部にあるフランス国立図書館でフォーレが作品構想の際に使っていたスケッチ帳を眺めていた。片手ほどのサイズのスケッチ帳は、歌曲《月の光》の草稿が取められていることから1887年頃のものだとされる。その中に、《ピアノ五重奏曲第1番》の終楽章(ニ長調)の冒頭主題となるモチーフがへ長調で書き付けられている。当時、《ピアノ四重奏曲第2番》の初演を終えたばかりのフォーレは「3番目のピアノ四重奏曲」を計画していたが、これは最終的に《五重奏曲第1番》へと姿を変えた。この曲が初演を迎えたのは1906年なので、着想から聴衆の耳に届けられるまでに実に20年ほどの年月が経過したことになる。なぜこれだけの時間がかかったのか、その時間がこの作曲家に何をもたらしたのか…。

その決定的な理由をフォーレ自身はほとんど何も語っていない。遺された書簡から第1楽章の構成に相当苦心していた様子が読み取れることぐらいだろうか。この頃のフォーレはパリ音楽院教授(1896年)、そして同院長に就任する(1905年)など社会的に認められる時期を迎え、仕事に追われつつも創作意欲に満ちていた。《五重奏曲第1番》の第1楽章は四重奏曲で用いたソナタ形式ではなく、まるで歌のような長い主題を持つ三部形式で書かれている。新しいものを生み出したいというフォーレの心境が他者の目にも見える、あるいは耳で捉えられる「かたち」となって現れた

楽曲なのかもしれない。資料を通して様々な想像を膨らませる「研究」の面白さを初めて感じた旅であった。

それから4年後、2015年の8月。ソルボンヌ大学留学中にアメリカへ調査旅行をする機会を得た。先にシカゴを回り、次にボストンにあるハーバード大学の図書館を訪れた。《ピアノ五重奏曲第2番》の自筆スコアを閲覧するためである。貴族の屋敷のような高級感漂う内装と筆記用具すらも迂闊に持ち込めない厳重な警備。そして立派に製本されたスコア。そそっかしい自分はうっかり手を滑らせないように気をつけながら閲覧し、図書館の雰囲気ひたすら圧倒されるひと時を過ごした。実はこのスコアは翌年には電子公開されて誰でも見られるようになった。この事実を知った時、便利になったことを喜びつつも、「せつかく行ったのに…」と少し落胆してしまった。しかし、見知らぬ土地で苦勞しつつも資料の実物を手にした瞬間の感触と感動は忘れがたい記憶として心に刻まれている。100年前まで確かにフォーレは生きていた。その証拠に対峙した時間は、自分がこの作曲家の研究を続けるモチベーションの源になっている。

フォーレのピアノ五重奏曲には様々な解釈の可能性が秘められている。パリの指導教授の下で博士論文を書き終えた今でも探求の余地は十分に残っていると思っている。12月7日(土)にザ・フェニックス・ホールで開催される「Fauré and more Fauré フォーレ ピアノ五重奏曲 全曲演奏会」。フォーレのピアノ五重奏曲2曲を期待の若手演奏家を取り上げる当公演は、皆様にもその可能性を体験していただける貴重な機会となるでしょう。是非、足をお運びいただければと思います。

白石悠里子(しらいし・ゆりこ) / 音楽学者

武蔵野音楽大学器楽学科ピアノ専攻卒業。同大学大学院修士課程音楽学専攻修了。同大学大学院博士後期課程単位取得満期退学。2012年(公財)ロームミュージックファンデーション奨学生として渡仏。2013年パリ=ソルボンヌ大学大学院修士課程(Master 2)修了、2018年ソルボンヌ大学(旧パリ=ソルボンヌ大学)大学院博士課程修了。博士(音楽学)。現在、武蔵野音楽大学非常勤講師。



あいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールをフェニックスタワー内に設けています。芸術・文化の発信基地として、関西の芸術文化発展に寄与しています。

〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー8F TEL 06-6363-0211

Copyright(C) 2011 The Phoenix Hall All rights reserved. 本誌に掲載された記事、写真、イラスト等の無断掲載を禁じます。

発行年月 2024年9月
発行 あいおいニッセイ同和損保
ザ・フェニックスホール
編集 谷 昌則
デザイン 松井桂三有有限会社

